

福与区セーフコミュニティ推進協議会の防災・減災対策

箕輪町のモデル地区である福与区セーフコミュニティ推進協議会(以下福与 SC と略させていただきます。)は、平成 27 年 10 月に発足以来、他地区の参考となる多くの活動を続けていますが、そのひとつである防災・減災対策について関係者の方からお話を聞きました。

○防災・減災の取組み概要について

【向山 町アドバイザー】

福与 SC では、防災・減災について災害等緊急時対策委員会(以後、自主防災委員会に名称変更)を設け土砂災害ハザードマップを作成して全戸配布し、地区内企業へも配布しました。また本年 5 月の総会においても平成 26 年 11 月に発生した白馬地震 DVD による研修を行いました。

特に国内外で地震が頻発している今、地区全体で継続した活動が期待・注目されていますが、最近の取組で紹介して頂けるものを聞かせてください。

【白鳥 事務局長】

活動開始 2 年目を迎える福与 SC では、課題の一つとして、「SC に関して区民の理解や認知が十分とは言えない」ことが挙げられます。

そこで本年度の活動計画において、「SC にかかわる区民対象の研修機会を持つ」を目標として掲げました。しかし区全体で取り組むとなると、SC の役員中心になる可能性もあることから、一般の区民に参加してもらう研修にするには、もっと小さな単位での研修会を出来るところからやろうと考えました。

鹿垣常会は福与区にある 7 常会の中では最も小さな常会ですが、9 月 3 日に予定されていた防災訓練に併せて、福与 SC の総会で視聴した長野県神城断層地震の DVD を見て、防災にかかわる研修を行うことになりました。

最大震度 6 弱を記録した長野県神城断層地震では、建物の下敷きになった住民を近隣住民が協力して救出し、1 名の死者も出さなかったことから『白馬の奇跡』と言われていますが、この時の様子が「白馬村震災記録 復興へのキセキ」という記録誌と DVD となっていることを知り、昨年度町の SC 推進協議会活動推進補助金で購入して活用してきました。

DVD には、地震発生直後の生々しい被災状況や被災住民の声が収録されています。なかでも、住民同士の助け合いの様子が具体的に語られ、日頃からの近所付き合いが突然の大災害時に活かされたことが伝わってくる内容です。

防災訓練当日は都合のつかない人がいたため、9 月 10 日の日曜日に鹿垣公民館においてこの DVD を活用した研修会を行いました。

○鹿垣公民館での活用について

【向山 町アドバイザー】

鹿垣公民館では、どのような活用をされたんですか。

【白鳥 事務局長】

事前に常会長名で研修会「鹿垣 SC の集い」の通知が全家庭に配付され、都合の付く人は大勢参加してほしい旨呼びかけがありました。常会は 24 戸ですが、当日は子どもから高齢者まで約 40 名が公民館に集まりました。

まず常会長と福与 SC 役員代表から挨拶や趣旨の説明等があり、研修が始まりました。長野県神城断層地震が発生して今秋で 3 年にもなることから、どんな地震であったのかについてパワーポイント (PP) を使って振り返りました。いつ、どこで、どんな規模の地震が起きたのか、一番被害の大きかった地区の震度は 6 強 (10 段階の 9 番目の強さで、実際の被害調査で震度 6 強と判明) であったこと、重軽傷者は 46 名いたが死者は 0 だったこと、などを説明した後、DVD を視聴しました。

12 分程の時間でしたが、参加者全員がスクリーンに釘付けになって視聴しました。

DVD を見た後、自由に感想や意見を出してもらいました。

<主な感想、意見>

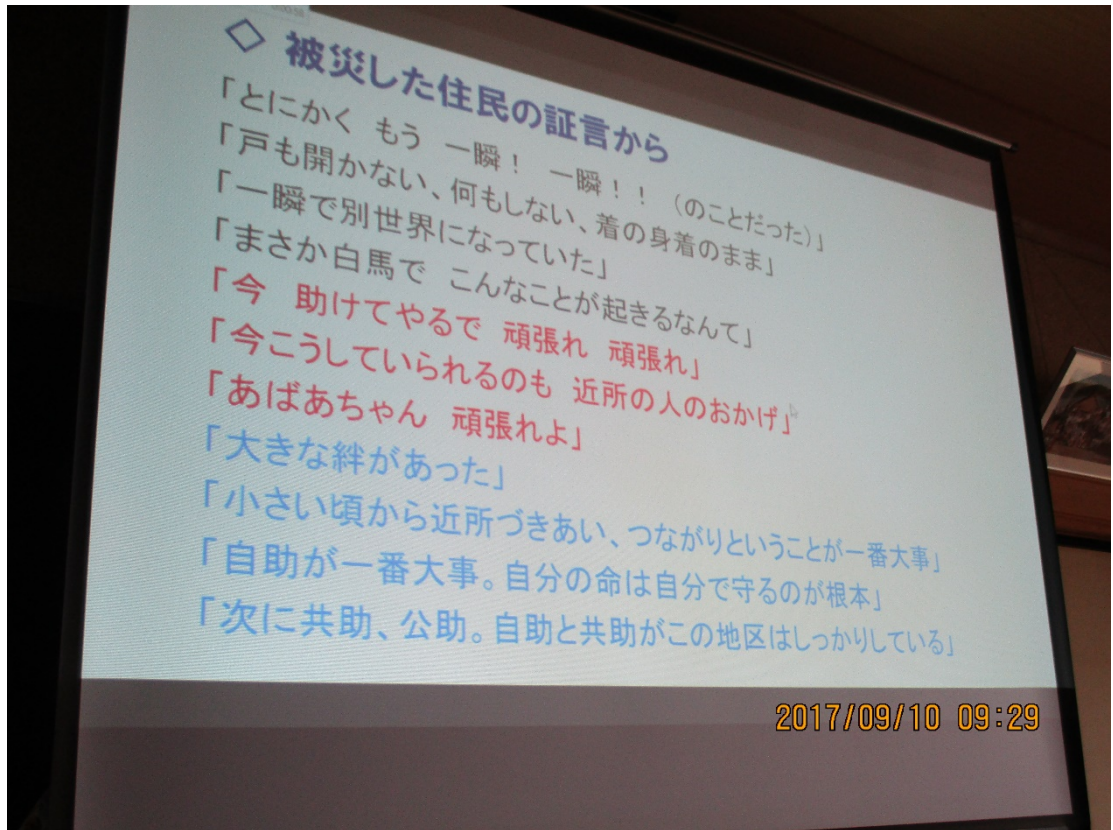
- ・良い機会をつくってもらってよかった。災害時は近隣同士の助け合いが基本。
- ・災害時にどうするのかを家庭内で話し合い統一する必要がある。
- ・ダンスのある部屋には寝ない、TV やピアノの傍は危険なため倒れ止めを活用する。
- ・倒壊したソーラーパネルは、発電していて感電するかもしれないので触らない。
- ・〇〇さん宅の西側斜面の土手は危険なため、町への対策を依頼した方が良い。
- ・防災訓練では避難訓練も大事だが、隣近所の安否確認が最も大事。
- ・個人情報の問題はあるが、世帯の人員や常備薬の分かる防災マップがあるとよい。
- ・常会としての防災マニュアルの作成が必要である。
- ・こうした災害等の事例を題材にして常会単位で一堂に集まり、意見交換をして共有化する集会を継続的に行ってほしい。 等

この後、福与 SC で取り組んでいる「交通安全対策」「くらしの安全対策」についても説明をした後、出席者全員から感想や意見を出してもらいました。

詳細は省きますが、ふるさと農道に関する心配事やスピード規制、グリーンベルト化の問題、買い物や病院通いと箕ちゃんバスの問題、日中の独居老人世帯の問題等、日常生活における問題や課題が幅広く出され、参加者同士が常会内の困り事について共有できる機会となりました。

午前 9 時から始まった SC の集いは 10 時半に終了しましたが、とても充実した研修会となり主催者として嬉しく思いました。





【向山 町アドバイザー】

参加された方の反響はいかがですか。

【白鳥 事務局長】

こうした研修の集いは、福与区はもとより鹿垣常会でも初めての試みであったため、何人集まるか、DVD を見ても感想や意見は出されるのかと心配しました。しかし DVD の映像がリアルで臨場感もあったせいも、大勢の参加者から率直な声が途切れることなく聞かれたことが一番の最大の収穫でした。

また、東日本大震災はもちろんのこと、昨年の熊本地震、10 数日前にメキシコで発生した大地震等、大地震の発生が日常的な関心事となっていることが、よそ事ではないという意識や感覚になっていることを強く感じました。

○今後の取組みについて

【向山 町アドバイザー】

今後の取組について聞かせてください。

【白鳥 事務局長】

今回のような常会単位での集会や敬老会や分館活動等、小さい単位での研修機会を積み重ねていくことで、区民の防災意識や防災対策が少しでも進むことを願っています。

DVD の中で、当時の消防団長さんが「自助が一番大事。次に共助。最後に公助。自助と共助がこの地区はしっかりしていたことが、被害を最小限に食い止めた」という意味のことを語っていました。福与区にとって、自助と共助の現状や課題は何か、今後の SC の活動の中で見極めながら取り組んでいけたらと考えています。

具体的には、危険箇所や災害時に支援が必要な世帯の把握をはじめ、家具転倒防止対策、出火対策などできることから進めたいと考えています。

【向山 町アドバイザー】

最近、中央防災会議の有識者会議が東海地震をはじめとする南海トラフ地震について確度の高い予測は困難とする報告書案をまとめました。30 年以内の発生確率と被害予測をみるに、箕輪町における震度は発生確率 88%の東海地震は震度 5 強、発生確率 70%の南海トラフ地震は震度 6 弱となっています。「地震はいつ来てもおかしくない」ではなく「地震は来る」との意識で、できることから継続することが重要だと私も考えます。

なお出火対策について町では、地震発生時に電気のブレーカーが切れ、通電火災を防ぐ感震ブレーカー の普及を進めていますのでよろしくをお願いします。

本日は、地域における大変参考となるお話をありがとうございました。

感震ブレーカー(写真は配電盤に取り付けるタイプです)

